長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ

ひづけ

1　リスの ふゆじたくを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

秋に なると、リスは 木の 実を たくさん あつめます。あつめた 実は、地面に あなを ほって うめたり、木の あなに ためたり します。ふゆの あいだは 食べものが 少なくなるので、その ために たくわえるのです。ときどき うめた 場しょを わすれて しまい、そこから 春に 新しい 木が 生える ことも あります。

1. リスは、木の あなにも 実を ためて おく。
2. リスは、冬の あいだ すの 中で ねむって すごす ことが 多い。
3. リスは、木の 実の ほかに きのこも ためて おく。
4. うめた 場しょを わすれた 実から、木が 生える ことが ある。
5. リスが うめた 実は、春に ほり出されて 食べられる。

2　ミツバチの しごとを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

ミツバチは 花から みつを あつめ、すに もちかえって はちみつを 作ります。花から 花へ とびまわる とき、体に ついた 花ふんを はこび、花が 実を つける ただすけも しています。1ぴきの はたらきバチが 集める みつは わずかですが、なかまと 力を 合わせて たくさんの はちみつを たくわえます。

1. ミツバチは、花の みつから はちみつを 作る。
2. ミツバチは、おしりを ふる ダンスで なかまに 花の 場しょを 知らせる。
3. ミツバチは、花ふんを はこんで 花が 実を つける 手だすけを する。
4. ミツバチの むれには、女王バチが 1ぴき いる。
5. ミツバチの すは、六角形の へやが ならんで いる。

長い文章を よんで えらぼう【こたえ】

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：1・4

『木の あなに ためたり』『わすれた 場しょから 春に 新しい 木が 生える』が 文章に あります。ほかは、正しい ことでも 文には 書いて いません。

2　答え：1・3

『みつを あつめ はちみつを 作ります』『花が 実を つける てだすけ』が 文章に あります。本文に 書いて いない ことは、正しくても えらびません。

読み取るコツ

長い文章は 二〜三に 区切って 読み、大事な ところに 線を 引きます。

知って いる ことでも、文章に 書いて いなければ えらびません。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　わたり鳥の たびを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

つばめは あたたかい き節に 日本へ やってきて、す作りを して ひなを 育てます。さむく なると、南の あたたかい 国へ とんで いきます。何千キロも はなれた 場しょまで、休みながら とびつづけます。同じ つばめが、次の 年も 同じ 家に もどって くる ことが あります。

1. つばめは、雨が ふる 前に ひくく とぶ ことが ある。
2. つばめは、田んぼの どろを くちばしで はこんで すを 作る。
3. つばめの すは、どろと かれ草を まぜて できて いる。
4. つばめは、あたたかい き節に 日本で ひなを 育てる。
5. 前の 年と 同じ 家に、つばめが もどって くる ことが ある。

2　サケの 一生を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

サケは 川で 生まれ、しばらくすると 海へ 下って 大きく 育ちます。数年 たつと、生まれた 川に もどってきて たまごを うみます。長い たびの あいだ、たきを とびこえたり、てきに おそわれたり しながら、もとの 川を めざします。

1. サケは、数年 たつと 生まれた 川に もどって くる。
2. サケは、たきを とびこえながら 川を のぼる。
3. サケの 体は、海に いる あいだ 銀色に 光る。
4. サケは、たまごを うむと その多くが 一生を おえる。
5. サケは、生まれた 川の においを たよりに もどると いわれる。

長い文章を よんで えらぼう【こたえ】

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：4・5

『あたたかい き節に 日本へ やってきて ひなを 育てます』『次の 年も 同じ 家に もどって くる』が 文章に あります。本文に 書いて いない ことは、正しくても えらびません。

2　答え：1・2

『数年 たつと、生まれた 川に もどって きて』『たきを とびこえたり』が 文章に あります。ほかは、正しい ことでも 文には 書いて いません。

読み取るコツ

長い文章は 二〜三に 区切って 読み、大事な ところに 線を 引きます。

知って いる ことでも、文章に 書いて いなければ えらびません。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　たねの たびを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

しょくぶつは 動けませんが、たねは いろいろな 方ほうで 遠くへ 運ばれます。たんぽぽは わた毛で 風に のります。おなもみは 服や 動物の 毛に くっついて 運ばれます。さくらんぼの ような 実は 鳥に 食べられ、遠くで ふんと いっしょに たねが 落ちます。こうして なかまを ひろげます。

1. カエデの たねは、はねで くるくる 回って おちる。
2. おなもみの たねは、動物の 毛などに くっついて 遠くへ 行く。
3. ヤシの 実は、海に うかんで ながされ、遠くの 島へ 運ばれる。
4. しょくぶつは 動けないが、たねは 遠くへ 運ばれる。
5. ホウセンカは、実が はじけて たねを とばす。

2　こん虫の へんしんを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

チョウは たまご→よう虫（あおむし）→さなぎ→せい虫（チョウ）と、すがたを 大きく かえて 育ちます。これを かんぜんへんたい と いいます。いっぽう、バッタは さなぎに ならず、よう虫が だっぴを くりかえして せい虫に なります。

1. バッタは、草の しげった ところに 多く すむ。
2. チョウは、さなぎを へて せい虫に なる。
3. チョウの よう虫は、だっぴを くりかえして 大きく なる。
4. カブトムシも、さなぎを へて せい虫に なる。
5. バッタは、さなぎに ならずに せい虫に なる。

長い文章を よんで えらぼう【こたえ】

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：2・4

『おなもみは 服や 動物の 毛に くっついて』『しょくぶつは 動けませんが、たねは…遠くへ 運ばれます』が 文章に あります。ほかは、正しい ことでも 文には 書いて いません。

2　答え：2・5

チョウは『さなぎ→せい虫』、バッタは『さなぎに ならず』と 文章に あります。チョウの だっぴや バッタの すがたは 書いて いません。

読み取るコツ

長い文章は 二〜三に 区切って 読み、大事な ところに 線を 引きます。

知って いる ことでも、文章に 書いて いなければ えらびません。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　こおりと しおを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

水は 0どで こおりますが、しおを まぜると、もっと ひくい おんどに ならないと こおりません。ゆきの ふった道に しおを まくのは、この せいしつを つかって、道を こおりにくく する ためです。ふゆの さむい 地いきでは、道が こおって すべると あぶないので、よく しおが まかれます。

1. さむい 地いきでは、道に よく しおが まかれる。
2. 雪の 道に しおを まきすぎると、草木が かれる ことが ある。
3. 雪の 道の しおは、くるまの 下を さびさせる ことが ある。
4. 雪の 多い 地いきでは、道に 水を まいて 雪を とかす ことも ある。
5. 雪の 道に しおを まくのは、道を こおりにくく する ためだ。

2　雨が できる わけを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

地面や 海の 水は、太陽に あたためられて 水じょう気に なり、空へ のぼります。上空は つめたいので、水じょう気は 小さな 水や こおりの つぶに もどって 雲に なります。つぶが 大きく 重く なると、雨や 雪と なって 地上に おちてきます。

1. 雲の 色が 黒いのは、つぶが 多く あつまって いる からだ。
2. 上空は、地面の 近くより つめたい。
3. 雲の つぶが 大きく 重く なると、雨や 雪に なる。
4. 上空の 風が 強いと、雲は はやく うごく。
5. 雨の つぶは、おちる とちゅうで 形が かわる。

長い文章を よんで えらぼう【こたえ】

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：1・5

『さむい 地いきでは…よく しおが まかれます』『道を こおりにくく する ため』が 文章に あります。ほかは、正しい ことでも 文には 書いて いません。

2　答え：2・3

『上空は つめたいので』『つぶが 大きく 重く なると、雨や 雪と なって』が 文章に あります。ほかは、正しい ことでも 文には 書いて いません。

読み取るコツ

長い文章は 二〜三に 区切って 読み、大事な ところに 線を 引きます。

知って いる ことでも、文章に 書いて いなければ えらびません。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ

ひづけ

1　月の 満ち欠けを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

月は 自分で 光っている のでは なく、太陽の 光を はね返して かがやいて 見えます。地きゅうから 見る 月は、日に よって まるく 見えたり、ほそく 見えたり します。これは 月が 地きゅうの まわりを まわり、太陽・地きゅう・月の いちが かわる ためです。月 じたいの 形が かわって いるわけでは ありません。

1. 月の 表面には、大きな くぼみが たくさん ある。
2. 月は、地きゅうに 同じ 面を むけた まま まわって いる。
3. 月は、太陽の 光を はね返して かがやいて 見える。
4. 月は、地きゅうより ずっと 小さい。
5. 月は、地きゅうの まわりを まわって いる。

2　森の はたらきを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

森の 木は、日光を あびて 空気中の 二さんかたんそを すいこみ、さんそを 出します。木の 根は 土を しっかり ささえ、雨水を たくわえて、こう水を ふせぐ はたらきも します。だから 森は「みどりの ダム」と よばれる ことも あります。

1. 森の 中は、夏でも すずしい ことが 多い。
2. 森の 落ち葉は、くさって 土の えいように なって いく。
3. 森の 木は、二さんかたんそを すって さんそを 出す。
4. 森は 雨水を たくわえて、こう水を ふせぐ。
5. 森には、たくさんの 生き物が すんで いる。

長い文章を よんで えらぼう【こたえ】

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

答えと、たしかめるところ

1　答え：3・5

『太陽の 光を はね返して かがやいて 見えます』『月が 地きゅうの まわりを まわり』が 文章に あります。本文に 書いて いない ことは、正しくても えらびません。

2　答え：3・4

『二さんかたんそを すいこみ、さんそを 出します』『雨水を たくわえて、こう水を ふせぐ』が 文章に あります。本文に 書いて いない ことは、正しくても えらびません。

読み取るコツ

長い文章は 二〜三に 区切って 読み、大事な ところに 線を 引きます。

知って いる ことでも、文章に 書いて いなければ えらびません。